

今日のトピック 中間選挙後の米国株式市場の見通し 過去5回の中間選挙後は概ね堅調に推移

ポイント1 米国は「ねじれ議会」へ 共和党主導の予算編成は困難に

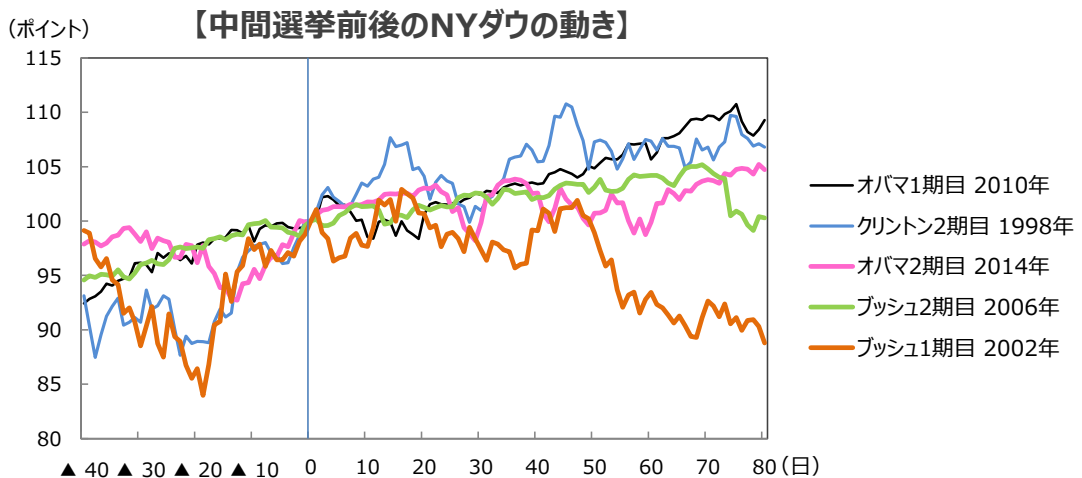
- 11月6日の米中間選挙は、上院の多数党が共和党、下院は多数党が民主党となったことで、いわゆる「ねじれ議会」となりました。今後、共和党主導の予算編成は困難となり、国境の壁建設等に代表される移民対策、医療制度改革などは実現の可能性が後退しました。大統領弾劾決議等、トランプ政権は厳しい政権運営を迫られるとみられます。選挙結果は市場の予想通りでした。

ポイント2 米国株式市場は上昇 追加的な景気刺激策に期待

- 11月7日のNYダウは545.29ドル上昇し、2万6,180.30ドルと節目の2万6,000ドル台を回復しました。材料出尽くしに加え、民主党のナンシー・ペロシ院内総務が同日、トランプ大統領とともにインフラ投資に取り組みたいとの考えを示したことで、追加的な景気刺激策への期待が膨らんだことが要因と考えられます。

今後の展開 米中首脳会談、トランプ大統領の言動に再度注目

- 今後は、今月末の20カ国・地域（G20）首脳会議に合わせて予定されている米中首脳会談、トランプ政権の保護貿易主義や対外強硬姿勢に変化が生じるか、などが注目点となりそうです。
- 過去5回の中間選挙後の株価動向を見ると、2002年のブッシュ大統領の1期目が調整色を強めました。また、ブッシュ大統領の2期目も70日を過ぎた後調整しました。他の3回は概ね堅調に推移しました。



(注) データは各中間選挙年の当日を基準にして前40日、後80日。NYダウは中間選挙当日を100として基準化。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2018年11月8日 米『中間選挙』、注目の下院は民主党が勝利 2018年11月7日 米中間選挙の結果が金融市場に与える影響について

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。